人は何が大切なのか

ーウェルビーイングな人と社会のためにー

牧野　篤
(東京大学大学院教育学研究科)

Well-being　（ウェル・ビーイング）：
（幸せを感じられる状態にある）

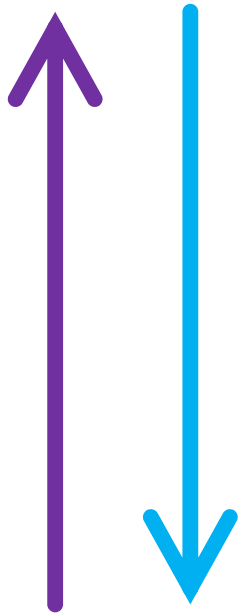
よりよく生きる　（positive）

よりよくいる　（存在）

よく在る　（状態）

そう在るようにして在る　（常態）

そう在るようにして在らしめられる（passive）
そう在るように受け入れあう



1. 「よきこと」に気づき、実践する
：コロナ後の社会への希望

コロナ禍で起こった「恩送り」

地域の高齢者を心配して布マスクを縫って届けた中学生たち

『中日新聞』(岐阜地域欄)2020年4月17日

校区の子どもたちのために布マスクを縫って配付した高齢者住民たち

⇦互いに相手を慮って、うれしかった！！

「恩送り」：自分への見返りを考えずに、相手によって「よきこと」をする
⇦基本的に、次の世代を育むこと＝社会をつなげること

私たちが社会をつくっていることの基盤
Compassion
⇨Compassionate Community (苦しみ・悲しみを分かちあう社会)

相手への想像力、「よきこと」に気づく、実践する

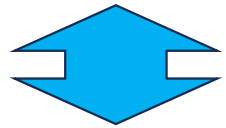
2. 人は何が大切なのか

過疎地三つの空洞化（小田切徳美：明治大学農学部）

人の空洞化
土地の空洞化
集落機能の空洞化

⇨誇りの空洞化　⇨集落の解体・自治の解体
⇨無住化

問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる

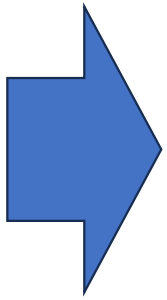


自己発見・新しい自分

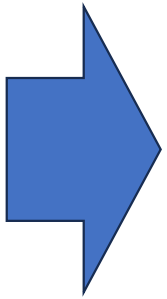
当事者性

プライド

つながり



自己有用感



Well-being
（幸せを感じられる状態にある）

サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
＝生きる意欲
を奪う暴力

恩送り

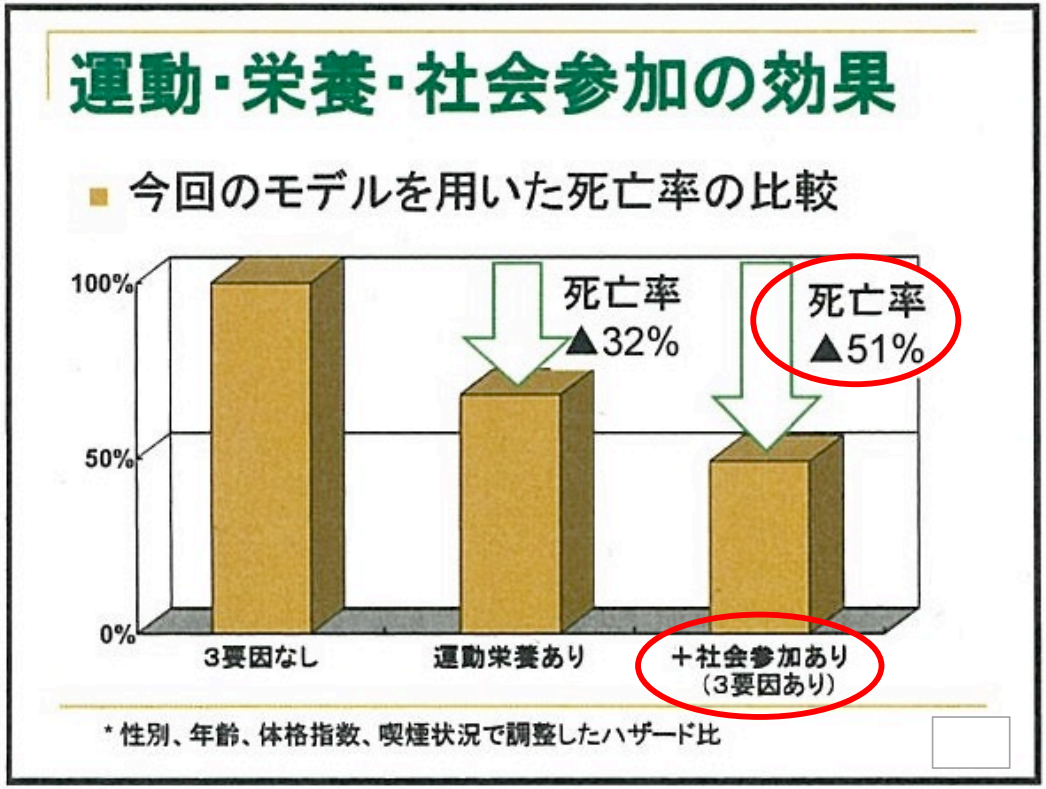
人生100年時代: おとなも子どもも学び続ける社会へ
⇨「よきこと」に気づき、実践する
「かかわりあい」が公共財となる社会へ

「ふるさと」とは「ひと」：おとなが子どもにかかわることで
子どもはおとなを「ふるさと」にする
おとなが「ふるさと」になった故郷
＝本当の「ふるさと」

3. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

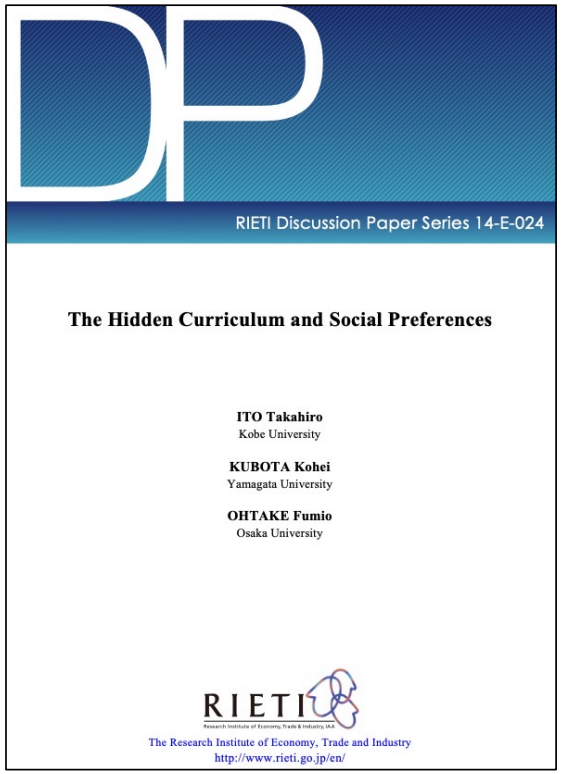
【高齢者14,001人の追跡結果】
○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

小学生時代にボランティアなどの
経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

参加・協力を経験した子どもは、
他者のために行動することを好み、
利他性と互恵性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



4. 「認めあう社会」「かかわりあう社会」をたくさんつくる

―〈ちいさな社会〉をたくさんつくる・1―

a. 都市部の空き家を開放し拠点化する

「住み開き」：
　自分の空間をちょっと開いて、公共空間にする

(財)世田谷トラストまちづくり：
「地域共生のいえ」

岡さんのいえTOMO

定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ＆駄菓子屋

メディアでの発信や取材

岡さんのいえTOMO　2011年10月～2012年3月までのできごと

まちの、お茶の間　あ・ら・か・る・と

オーナーと見守り隊員が、「あーでもない、こーでもない」と試行錯誤しながら、岡さんのいえTOMOも気づけばオープンしてから、はや5年目を迎えました。

とりわけこの1年は、上北沢小学校の先生やPTAの方との連携、上北沢の歴史に詳しい方にまちあるきのご案内をしていただくなど、岡さんのいえを飛び出して、上北沢の地域とつながれたことが大きな成果となりました。

そして、岡さんのいえTOMOの取り組みに興味を持たれた方、共感してくださる方が、遠いところから足を運んでくださる、嬉しい出来事もありました。

上北沢まち歩きマップ

手作り広場で上北沢と交流

ストローで割り箸鉄砲づくり

上北沢まち歩き

大正時代の趣を探し求めて…

和田さんのつぶやき

上北沢小のサマースクールで国語教室を開催

クリスマス会　お茶の間コンサート

岡さんのいえに来訪されたおたち

優しスペースの利用状況

文化祭とドクター・ゴロー講演会

住民が、
地域コミュニティをつくり出すこと

＝**文化**の生成

つながりの生成＝**まちのお茶の間**
居場所をつくる

b．「学び」と「人づくり」を一つながりに

：島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場	中学校カタリ場	高校カタリ場
小学生 × 高校生	中学生 × 地域の大人	高校生 × 企業の大人
「思春期」を終えた高校生から、これから「思春期」の小学生へ	「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ	ちょっと年上の先輩と、ちょっと先の未来を描く
● 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場	● 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場	● 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場
● 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる	● 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加	● 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加
● カタリ場を受けてきた高校生は、学業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る	● 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ	● 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりづくり、活動づくりのきっかけへ

キャリア教育、
はじめます。
子どもと大人の心に
"火"を灯す授業。
益田版
カタリ場

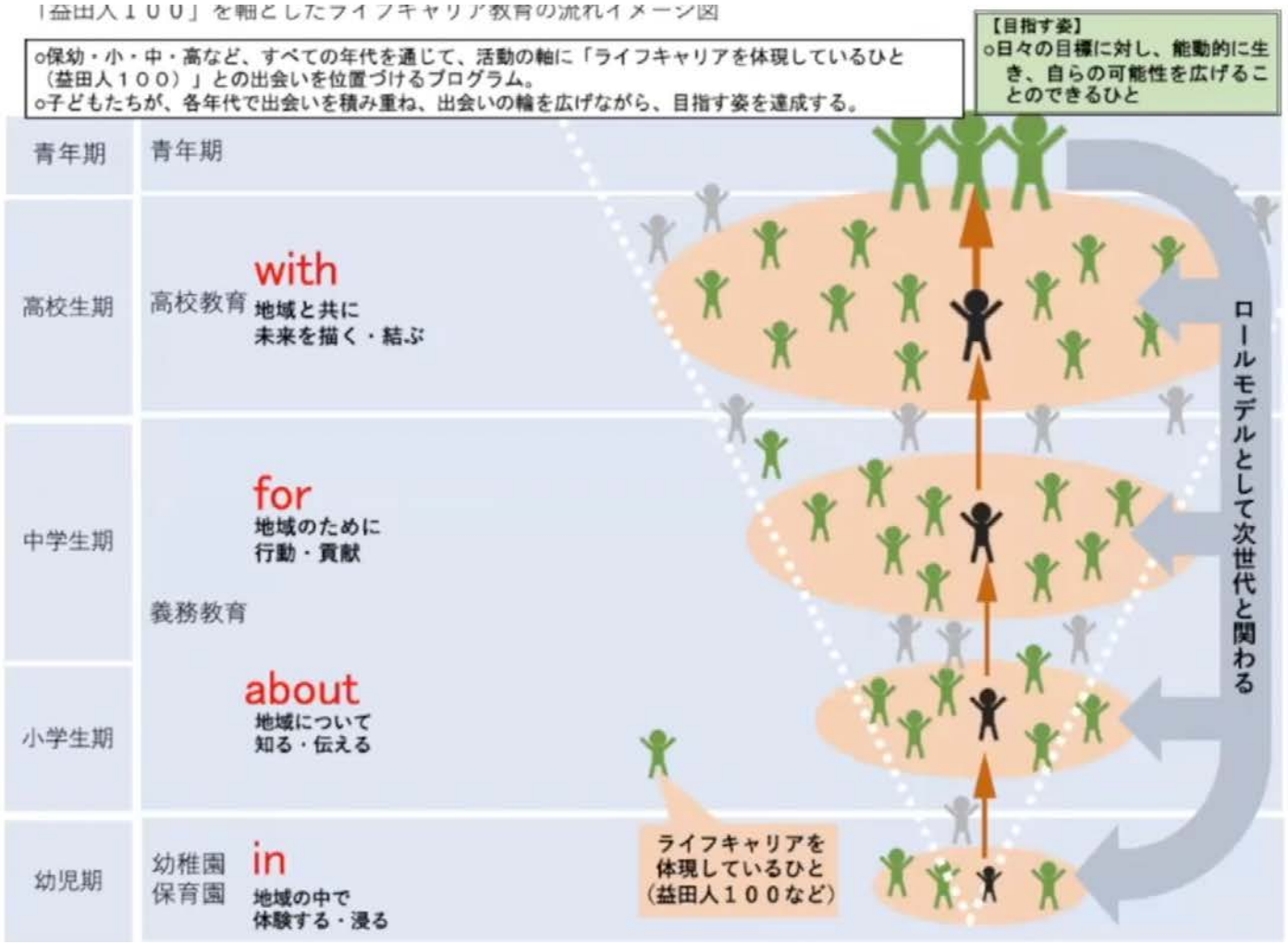
地域の方にインタビュー
『地域には各分野のスペシャリストがおられ
失敗しても何度でもトライできるからです』

公民館を拠点とした、中学生地域活動チーム

【 北 仙 道 地 区 】
陽光会

【 豊 川 地 区 】
とよかわっしょい

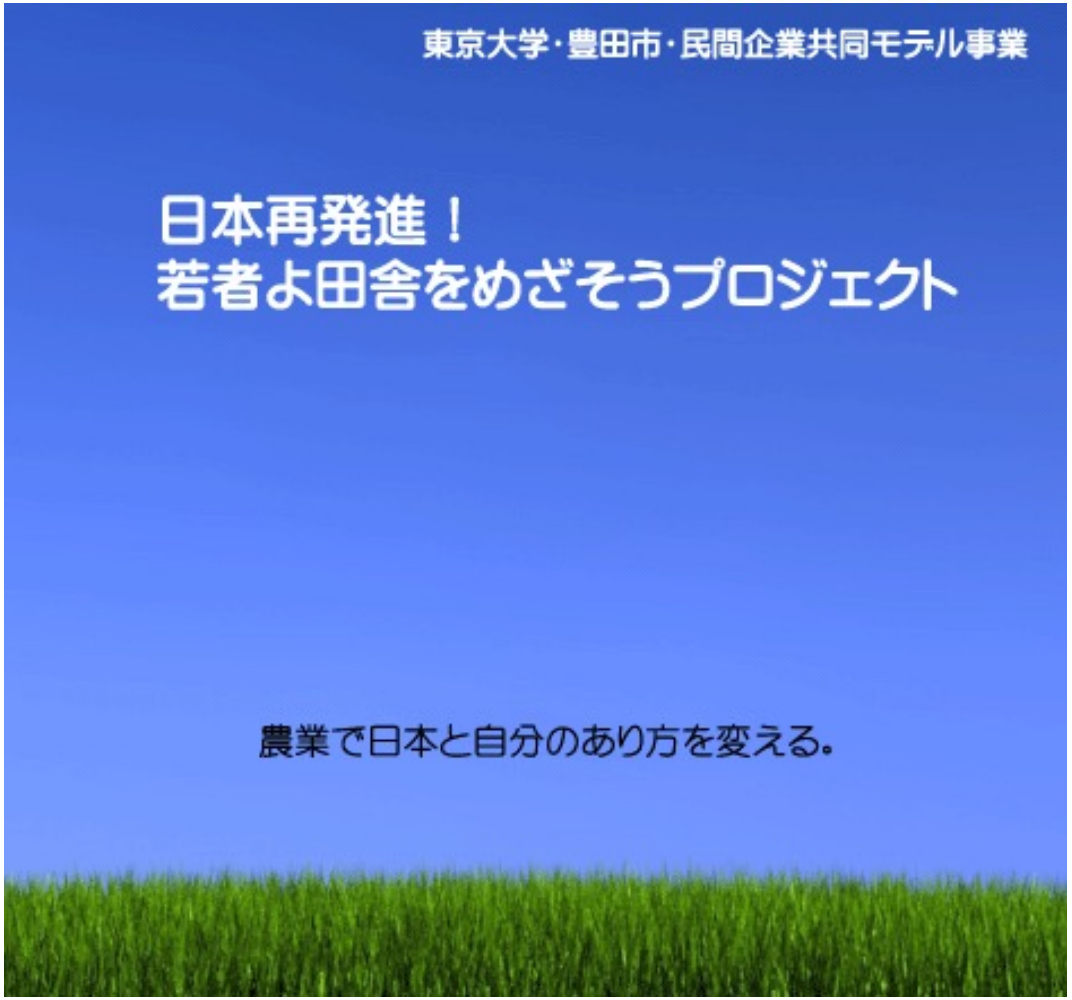
【 匹 見 3 地 区 】
匹中会


「益田人１００」を軸としたライフキャリア教育の流れイメージ図
○保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人１００）」との出会いを位置づけるプログラム。
○子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。
【目指す姿】
○日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと
青年期
青年期
高校生期
高校教育
with
地域と共に
未来を描く・結ぶ
中学生期
for
地域のために
行動・貢献
義務教育
小学生期
about
地域について
知る・伝える
幼児期
幼稚園
保育園
in
地域の中で
体験する・浸る
ロールモデルとして次世代と関わる
ライフキャリアを
体現しているひと
（益田人１００など）

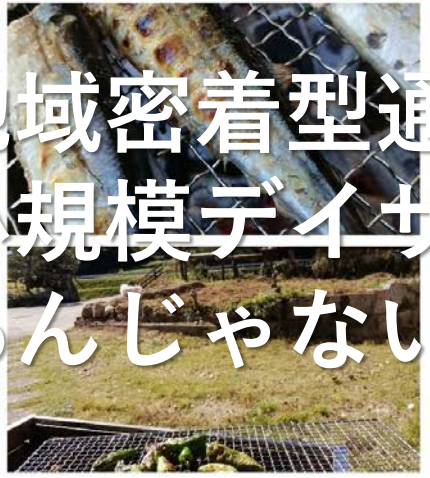
5. シェアリング（共居）へ

―〈ちいさな社会〉をたくさんつくる・2―

c．過疎・高齢中山間村の活性化事業



かかわりあう
共に感じる、動く
励ましあう



地域密着型通所介護
小規模デイサービス
あんじゃない

d.「拡張家族」：少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」

「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合

押井の里

誰も損も得もしない、みんなが少し幸せになる「自給家族」

ここがポイント

① 集落が家族になる ⇒ 新たな家族を増やす

② 地域まるっと中間管理方式 ⇒ 現代の庄屋

③ 新たな消費志向 ⇒ 食の「自給」と安心感

④ 山村集落の存続 ⇒ 美しい農村景観を守る

ゆるゆると、楽しんで集落を守る！

米一俵を30000円で

米を買うだけではない
「かかわり」をつくる
生活をともに維持する
農業をともに維持する
農地をともに維持する
環境をともに維持する

農業における物質代謝を適正化する
⇩
ある種のアソシエーションとしてのコミュニティ
よそ者が「当事者」になる

6. 「楽しさ」に駆動される〈社会〉

〈ちいさな社会〉づくりの取り組みは
何をやっているのか

相互承認関係をつくる
非認知能力を向上させる
社会に信頼感をつくる

人々が自律する
自己肯定感を持てるようになる

⇨誇り・プライドを保ち、認めあう関係

曖昧でゆるやかで、
関心をもつ人々が
多重に覆い被さることが必要

「楽しさ」「愉しさ」に駆動される

試行錯誤

開放系の構造

「そうだよね」「そうだよね」
「でもね……」
ではなく

「そうだよね」「そうだよね」
「だったら、こうしよう！」
の関係へ

この開放系の試行錯誤のプロセスそのものが「学び」

「楽しさ」「愉しさ」に駆動される

「楽しさ」「愉しさ」とは自分の誇りを保ち、
互いに尊重しあうかかわりのこと

7. FOR ALLの上にBY ALLへ

子どもたちが自分の生活や社会の当事者となる

おとなが伴走することで、おとな自身が主役となる

朝日新聞デジタル20220530

巨大マンション自治会に中学生役員　13歳の彼女がやってみたいこと

有料会員記事

村上潤治、山下奈緒子　2022年5月30日 14時00分

シェア　ツイート　ブックマーク　メール　印刷
list　2

自治会の役員になった鈴木梨里子さん=2022年5月14日、横浜市磯子区磯子台、村上潤治撮影

1230戸の巨大な 自治会 の役員に、 横浜市 の女子中学生が立候補して就任した。市が把握する中で最年少とみられる13歳が担うのは――。

この自治会は、横浜市 磯子区 に2014年までに完成した マンション 群（13棟、3300人）の「Brillia（ブリリア） City（シティ）横浜磯子自治会」。

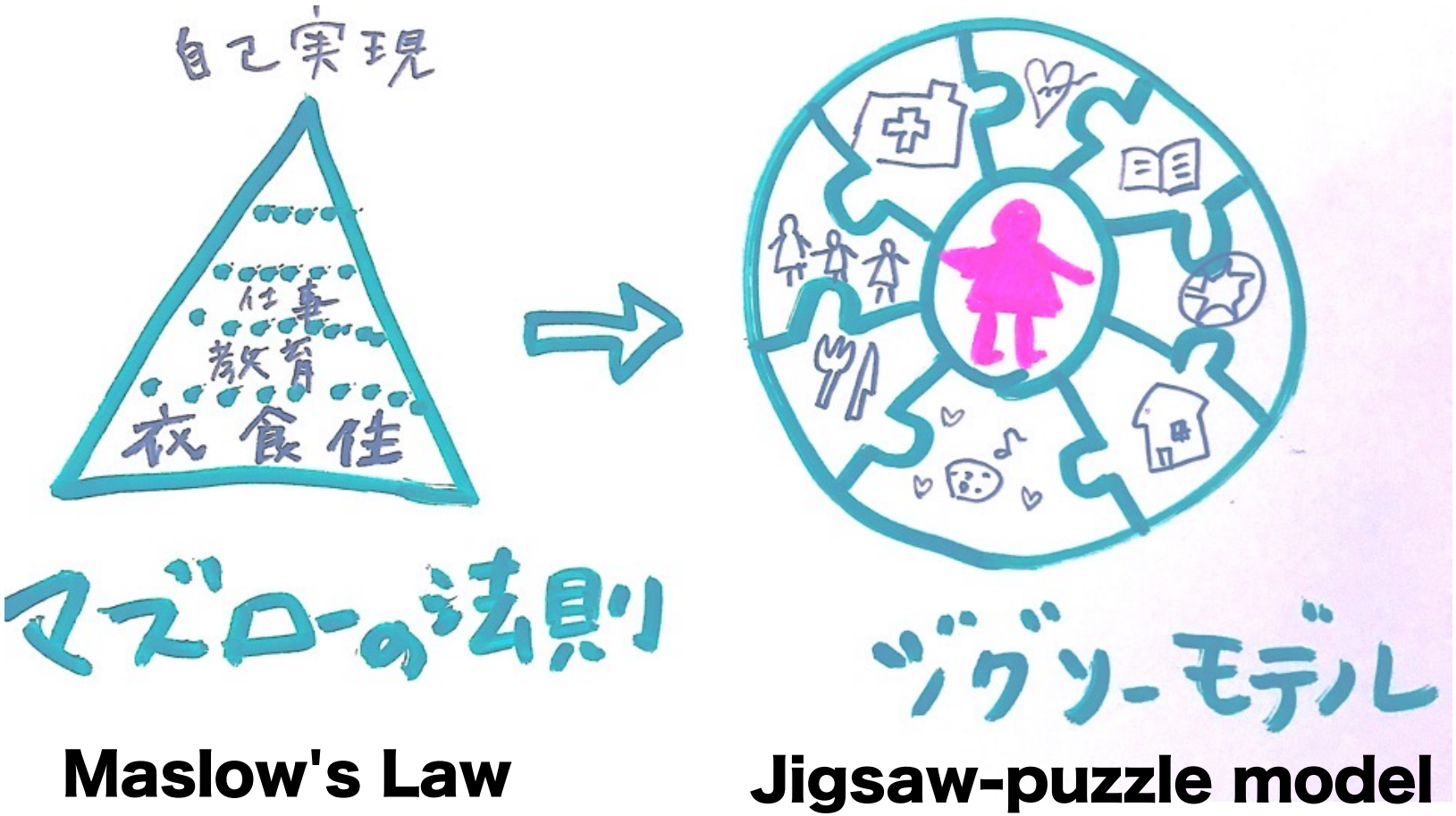
5月22日に約100人が参加した自治会のオンライン総会で第6期（任期2年）の役員18人が選ばれた。留任は9人。立候補は6人で、その1人が私立中学2年の鈴木梨里子さん（13）だった。

https://www.asahi.com/articles/ASQ5W4CSRQ5TULOB01G.html?iref=pc_ss_date_article

8.　「はまる」と、「育つ」

強い個人の「自立」ではなく、
みんなとの「かかわり」の中に
「はまる」と動くし、「育つ」

自分が引き出される
「在る」だけなのに「変化」する



上田假奈代「こえとことばとこころの部屋ココルーム」、東京大学大学院教育学研究科社会教育学研究室主催公開講座「社会教育の再設計・シーズン3」における講義（第2回・2022年2月17日、オンライン）

「ひと」との「あいだ」に「はまる」

「はまる」と「ひと」との間で
力を引き出される

「ひと」の役に立てる
自分が変わる
「ひと」との「あいだ」が変わる

自分が「ひと」との「あいだ」で在る

Jigsaw-puzzle model

「はまる」とは

みんなに巻き込まれて
みんなと一緒に、
Well-being(在るように在らしめられる)に、
なること

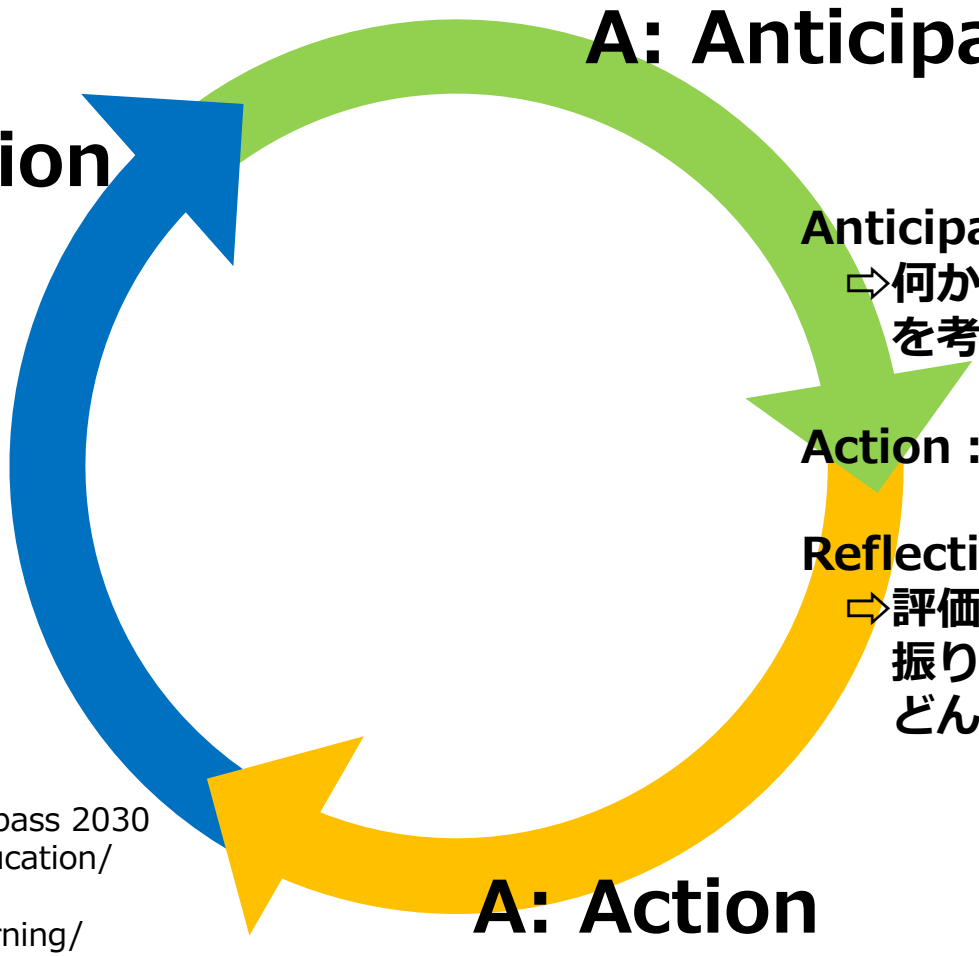
⇨自ら在る「自治」の主役となること

9. 「ちいさなしあわせを重ねあう」社会

「ひと」との「あいだ」が自分の居場所になる

「ひと」が「ふるさと」となる

「ふるさと」とは自分に「誇り」を持てること
そのように在るように在ること



Anticipation：予期する・予測する
⇨何か「楽しいこと・愉しいこと」
を考えてウキウキする

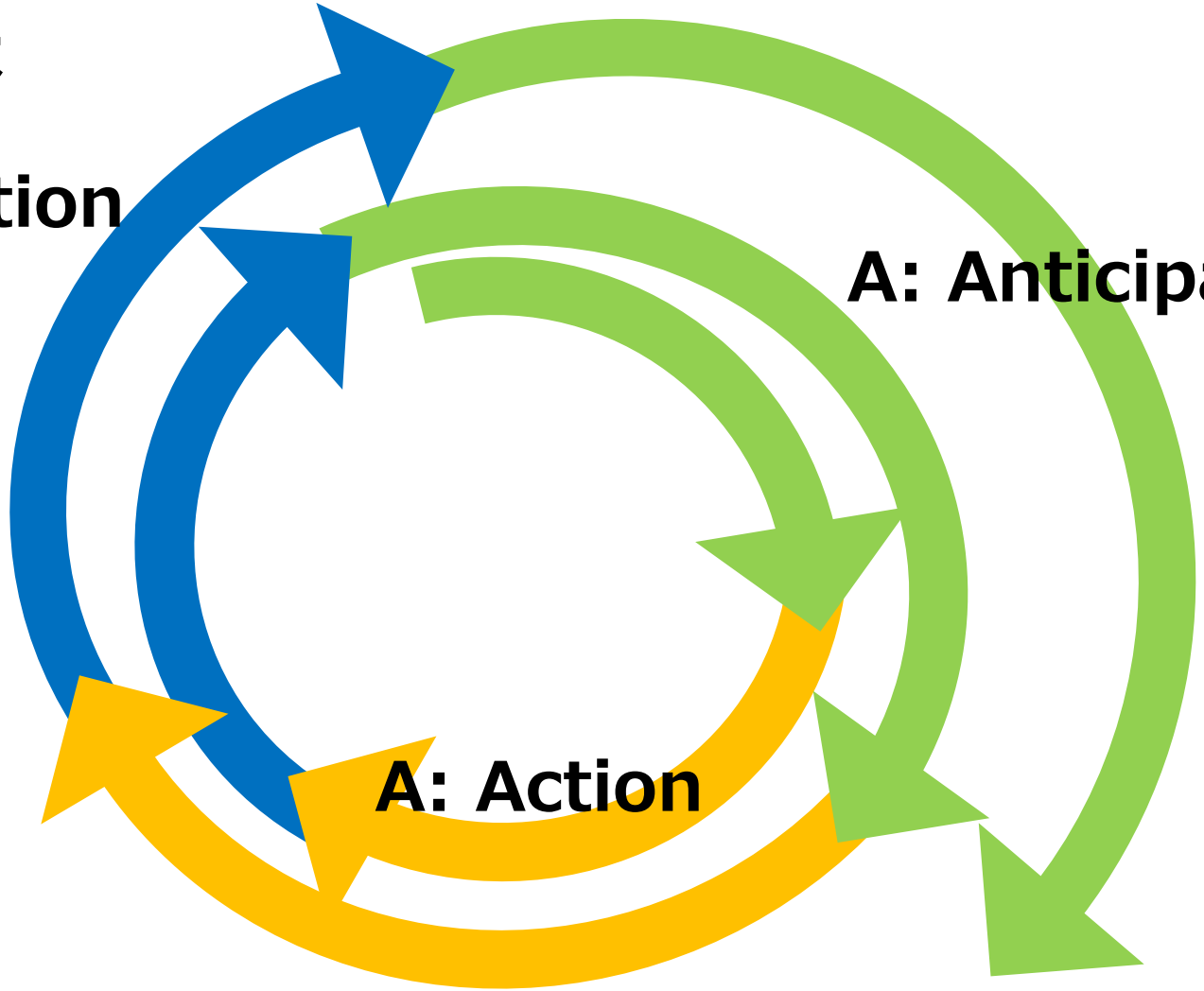
Action：やってみる

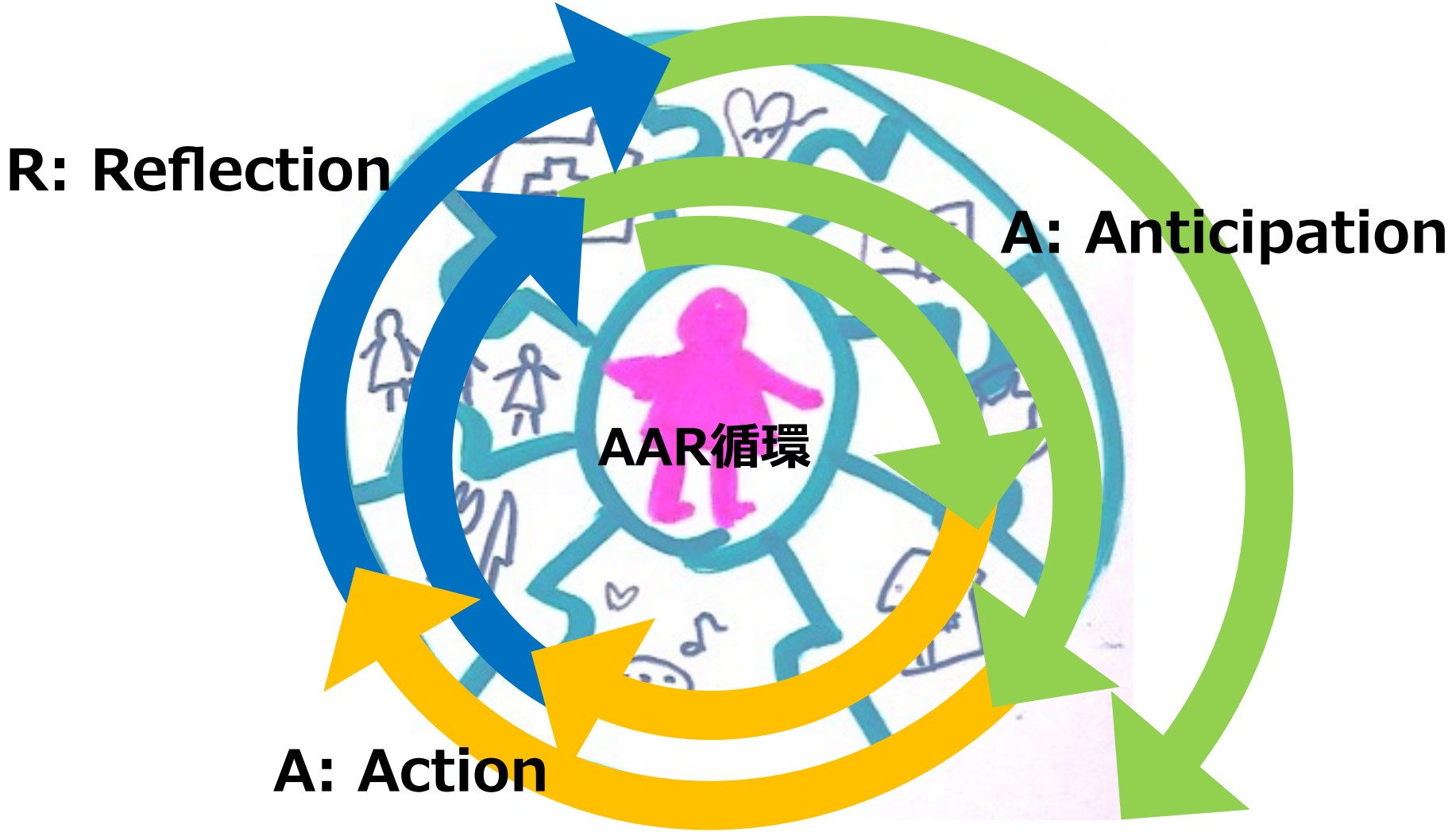
Reflection：振り返る
⇨評価しない
振り返って、さらにAnticipation
どんどん多様になる

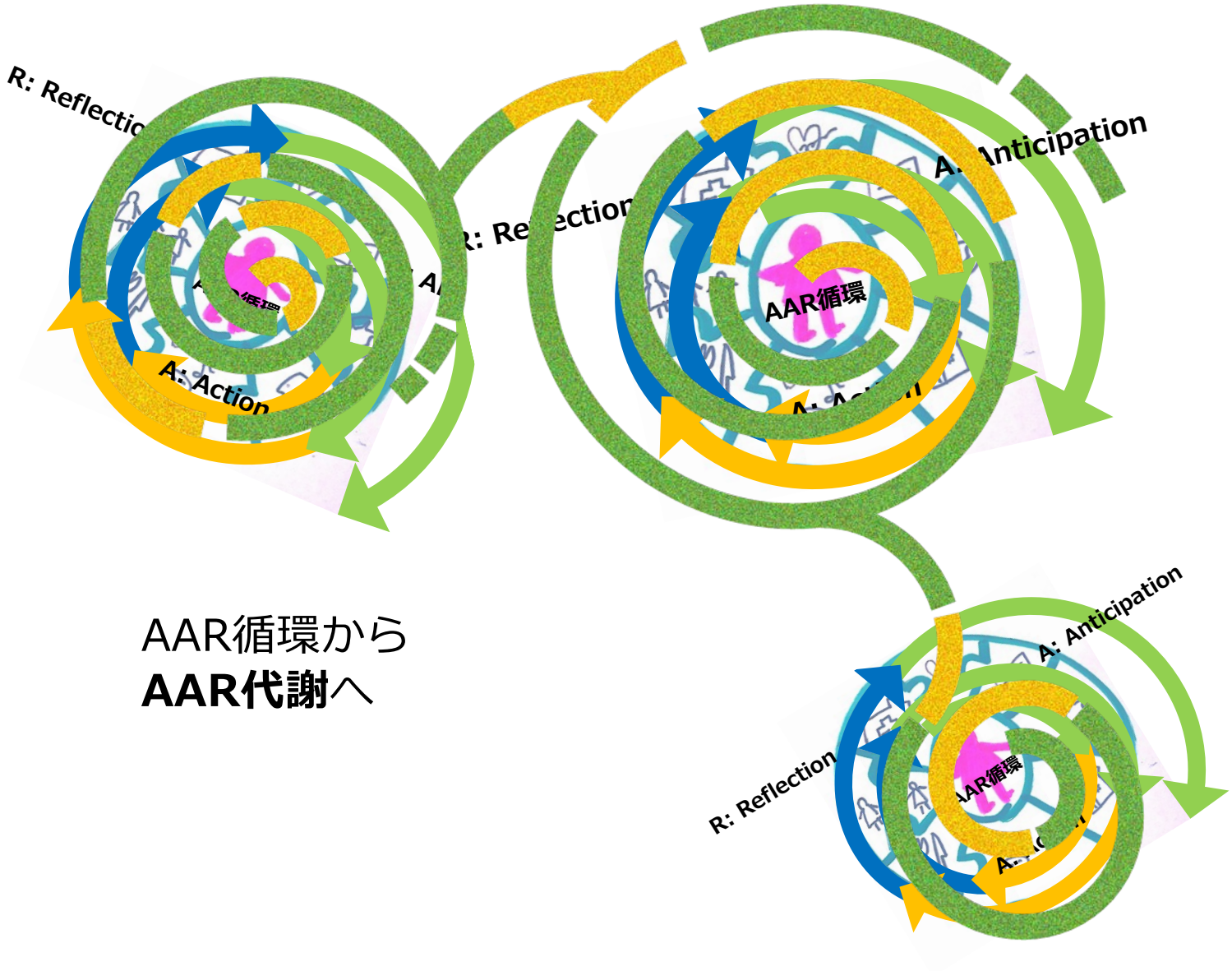
参考：OECD Learning compass 2030
https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/in_brief_Learning_Compass.pdf

実際は

R: Reflection




R: Reflection
A: Anticipation
AAR循環
A: Action



AAR循環から
AAR代謝へ

人を切り分ける社会

⇩

人と人との「かかわり」を紡ぐ社会へ

10．だれもが当事者になる社会へ

だれもが当事者になる

一人ひとりが「はまる」「まきこむ」「つくる」媒介
By Allの主役

自己決定・意志決定を基盤とする働き方

⇨Compassionate Community

⇨社会の地下水脈として

ちいさなしあわせ＝「在る」ことを重ね合う社会へ

誰もがWell-beingな社会とは
誰もがそう在るように在ることができ
そう在ることで変化を引き出しあい
新しい自分で在り続けることができる社会
⇩
代謝

社会は到来し続けるものとなる

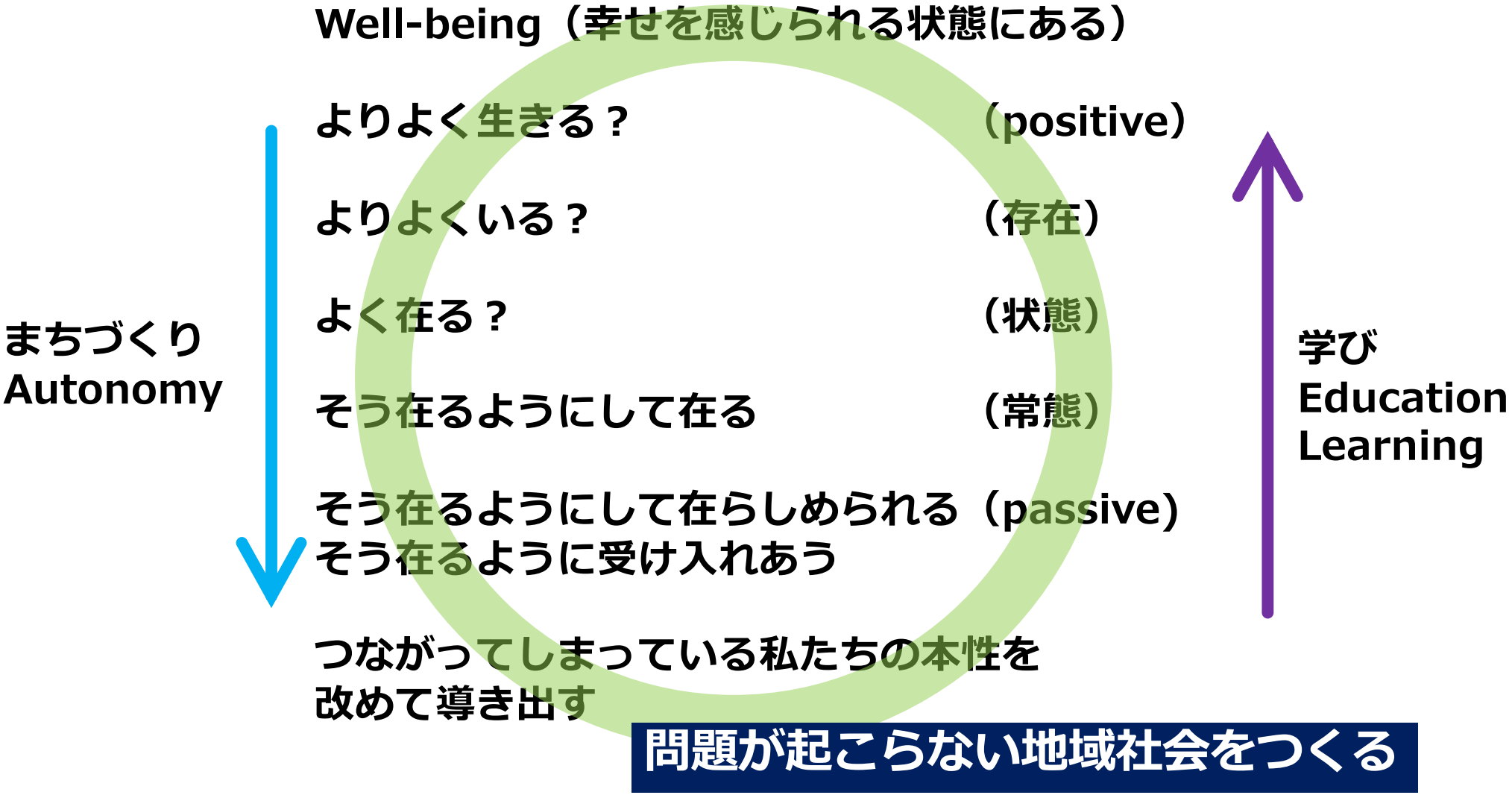
到来し続ける社会＝「ふるさと」をつくる

そのとき、誰もがBeingであることでDo-erになる

Do-er：何かをしないではいられない当事者

「よきこと」をつなげる〈社会〉へ

Be-ing　であることで　Do-er　になる


Well-being（幸せを感じられる状態にある）
よりよく生きる？
（positive）
よりよくいる？
（存在）
よく在る？
（状態）
そう在るようにして在る
（常態）
そう在るようにして在らしめられる（passive）
そう在るように受け入れあう
つながってしまっている私たちの本性を
改めて導き出す
まちづくり
Autonomy
学び
Education
Learning
問題が起こらない地域社会をつくる